

第70号
 発行日:令和4年5月1日
 発行所:東京青山同窓会事務局
 〒111-0032
 東京都台東区浅草 3-8-2-1101
 工藤 義夫(74回)
 e-mail:info@tokyo-aoyama.org
 TEL:090-1704-2413
 HP:https://www.tokyo-aoyama.org/
 発行者 日下部朋子(82回)

東京会報

東京青山同窓会
 ~東京青山同窓会年間維持費~
 1口1,000円/2口以上(年間)
 会計幹事:高山佳郎(83回)
 振込先:極力①をお願いします。
 ①郵便振込口座 00150-9-4074
 加入者名 東京青山同窓会
 ②三井住友銀行京橋支店 普 8430640
 東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

東京会長 挨拶

佐藤 信秋(74期)



残念ながらコロナ禍が続いています。この原稿執筆時点では新潟も400人を超える新規陽性者が続いて第6波が収束を見ていません。しかし少なくとも青山同窓の花角知事の奮闘のおかげで、東京との出入りが多いにもかかわらず、全国の中でも比較的よく抑えられている、との評価ができるでしょう。東京は連日4~5千人となかなか減りませんが、皆様方は元気でお過ごしのことと存じます。また、ロシアがウクライナに侵攻する、といううとんでもない事態が続いています。柔道を愛し、国民の幸福を願う国会議員柔道連盟というのが有り、精力善用、自他共榮に立ち返って、1日も早く撤兵するよう柔道愛好家でもあるプーチン大統領に提言書を送付したところでした。平和と安全、安心は、何よりも優先されるべきです。その点からは、新潟をはじめ、日本海側への人口と経済の分散の必要性を改めて痛感し、知事の言う、住んでよし、訪れて良しの新潟づくりに少しでも貢献したいものと考えて、皆で力を尽くしたいですね。

コロナ3年目「2022 総会 & 新人歓迎会」時期未定



みなさま
 お待ちかねの
リアル同窓会

“新人”さん!
 いらっしやい!

開催は いま少し
 お待ちください!
 ウクライナに自由を
 コロナよ さらば...

そして、晴れて
盛大に同窓会を!
 祝・130周年を

◆コロナの時代に◆ ~ 茨木のり子 詩集

「自分の感受性くらい」
 駄目なことの一切を 時代のせいにはするな
 わずかに光る尊厳の放棄 自分の感受性くらい
 自分で守れ ばかもよ (自分に)

「一人は賑やか」
 一人でいるのは賑やかだ 賑やかな賑やかな海だよ
 誓って負け惜しみなんかじゃない一人で淋しいやつが
 大勢寄ったなら 墮落だな

「汲む」—Y・Y— 大人になるというのは
 ... たかをくくるな なめてかかるな ...
 大人になっても どきまぎしたっていいんだ
 ぎこちなさ しぐさ 頼りなさ 鍛える必要はなかった

「倚りかからず」
 できあいの思想,宗教,学問,権威に倚りかかりたくない
 自分の耳目二本足で 倚りかかるのは椅子の背だけ

「小さな渦巻」
 ひとりの真摯な仕事は思いもかけない遠くで渦巻く

“確かな報道~ウクライナ”など

ウクライナでの戦争については、2月末から多くの報道局が報じているが、なかでも、大越健介キャスター(テレビ朝日)の報道がやはり信頼できているようだ。NHK時代に「激動の世界」でプーチン特集も担当し、早速ポーランドとウクライナ国境地帯に赴き、特番「タモリステーション」では、「避難民の人達の姿から戦争は確かにウクライナを戦場として起きていると実感する。今まさに恐ろしい戦争の現実の一端に触れている思いを強くする」。スタジオでキャスター然としているより「やはり野に置け」なのである。



＜大越 健介；青山88期＞
 ポーランド国境のリビウにて取材中

ウクライナに自由と平和を！ さらば コロナよ！



青山

本2022年は創立

130年

青陵

《お知らせ》 ~ コロナ動向をみながら ~

- ・2022総会 & 歓迎会;未定
- ・カジュアル丈夫会 & 火曜会 未定
- ・ミニ臨時総会 & 幹事会・予定 (別途案内)

＜会計担当;川上康夫(79期)＞ 年会費2千円の納付先
 ①郵貯銀行 ; 00150-9-4074 または
 ②三井住友銀行京橋支店・普通 8430640

問合

＜事務担当＞ ~ よろずご連絡など ~
 事務局長 ; 工藤義夫(74期) 090-1704-2413
 info@tokyo-aoyama.org / plutarchoshannibal@yahoo.co.jp

本年・2022年は <母校創立130周年> ... 三世紀につづく!

＜創立＞
1892(M25)

♪青陵♪
(中学校歌;1922)

1954(S29)焼失
↓ 同年
青山同窓会発足
↓<1~4期工事>
1960(S35)完工

♪女子入学♪
(1950年; 61期・数名)

＜現校舎＞
1999年~
(平成11)

男女比:半々
全県一区

未来へ

“新人(129期)”寄稿2 ~よろしくお願ひします~

<各組・有志9名>

ながはま ももね <長浜 百音 ~1組クラス有志>

第129期1組の長浜百音と申します。お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科に在籍しております。126期生の姉が私の憧れの存在であり、大学、学部、学科すべてが姉と同じ所属となっています。大学では、主に英米文学や言語学などを学んでおり、英語圏の様々な文化や歴史、言葉の成り立ちをもとに、「英語」を多面的に理解しながら言語運用能力の向上に努めています。また、私は高校時代、弓道部に所属しており、現在も大学の弓道部に所属していています。弓道は自分と向き合うことができる、とても奥深く美しいスポーツだと思います。さらに、年齢を問わずいつでも始められ、ずっと続けられるところも弓道の魅力です。中学時代までは専ら文化系だった私が弓道に出会ったことは、とても大きなことだったと感じています。現在も新型コロナウイルスの流行により自粛生活が続いており、私は大学の授業のほとんどがオンラインで、寂しく感じるものが多々ありますが、こんな今だからこそできることに目を向けて、前向きに生活していきたいと思っています。青山同窓会の一員にならせていただき、とても光栄に思います。これからもよろしくお願ひいたします。

はせがわ かなで <長谷川 奏 ~2組クラス有志>

二組有志の長谷川奏です。現在、慶應義塾大学商学部商学科に在籍しています。高校では陸上競技部に所属。過酷な練習の中でも、部員やマネージャー、そして先生方が家族のように接してくれたこともあり、毎日の部活動がとても楽しみでした。大変恵まれた練習環境であったと実感しています。OBの方々からも多くのご支援を受けながら、昨年6月の校内記録会を以って悔なく競技を引退できたことに、この紙面をお借りして感謝申し上げます。大学では新たに応援指導部に所属し、東京六大学野球等の応援活動をしています。振り付けなど覚えることが多く、一筋縄ではいかない厳しい部活動ですが、高校時代に培った忍耐力や適応力を活かしつつ、喜びとともに日々の成長を実感しています。数か月間の出来事でありながらも、入部して心から良かったと感じています。青山同窓会の一員として、いずれはこの応援のパワーを、私が現役の際にOBの方々から頂いた様に、新潟高校に関わる多くの方々にお届けしたいと考えています。依然として先行きを見通しづらい状況ではありますが、青山同窓会の諸先輩方にお目にかかれる日を心待ちにしています。



**慶応大学
応援指導部**

注) 本頁の寄稿は
2021年.8月 時点

いしくろ ひなこ <石黒日奈子~3組クラス有志>

青山学院大学文学部英米文学科に在籍しております。石黒日奈子と申します。高校では何かに熱心になるという経験が出来なかったため、大学ではたくさんの方に挑戦しようと思ひ日々励んでおります。ついこの間遅ればせながらアイススケート部フィギュアスケート部門に入部させていただきました。もともとフィギュアスケートの観戦自体は好きだったのですが、実際にやってみると見た感じよりもずっと滑りにくいです。しかし、だからこそ上達した時の喜びは非常に大きいです。また、大学で学んだ詩や小説の舞台となったイギリスの土地に心惹かれ、コロナ禍が明けたら訪れることが出来るよう、アルバイトを始めさせていただきました。留学も視野に入れ、英語資格の勉強にも取り組んでおります。新型コロナウイルスの長期的な流行により、東京では思い描いていたような大学生活が送れていません。しかしながら、今できることを積極的に探してみると、思いのほかたくさんあることに気が付きます。新しい生活様式の中でも以前と変わらない、むしろ以前より充実した大学生活が送れるよう精進して参ります。至らない点も多々あるとは思いますが、何卒宜しくお願い致します。

しみず ゆり <清水 祐里 ~4組クラス有志>

現在、筑波大学医学群看護学類に在籍しています。清水祐里と申します。私は、将来助産師として働きたいという夢のために、この大学へ進学しました。去年より規制が緩くなったとはいえ、新型コロナウイルスの影響で対面は週一回の体育だけです。専門科目もまだ今の時点ではあまり受講していないため、大学に入った実感があまり湧いていないというのが正直なところです。サークル活動やSNSを通して、交友関係が広がってはいますが、同じクラスでもまだ顔と名前を把握できていない人も多いです。今の生活も十分楽しめてはいますが、想像していた大学生活を送れる社会に少しでも早くなって欲しいと願ひしながら、勉強を含めた毎日の生活を頑張っていきたいと思っています。私は高校時代、水泳部と写真部に所属しており、特に水泳部の方ではOBの方々の支援を感じる機会が多々ありました。これからは、私も彼らのように自分のできる範囲で、後輩を支援していきたいと思います。

やまもと ゆうな <山本 優奈 ~5組クラス有志>

新潟高校第129期卒業生の山本優奈です。私は生徒会執行部に所属していました。また、2年の秋までは空手道部にも所属していました。これらの活動を通して、大切な仲間や継続する力を得ることができたと考えています。私が進学した千葉大学看護学部では、現在週に3回ほど対面授業を行っています。大学が始まってすぐの4月頃は、近くに友人がおらず、大学で人と会う機会も少なかったため、寂しい思いをしたこともありました。しかし、現在は徐々に大学での友人も増え、サークル活動も始まりました。未だコロナウイルスの感染は収束していませんが、未来の医療従事者として自身の行動に責任を持ちつつ、有意義な大学生活を送れるように努力したいです。

129期

“青山 青陵 丈夫”

おおたけ みずき <大竹 瑞希 ~6組クラス有志>

東京大学理科二類1年生です。高校ではクイズ同好会に所属しました。大学に入って数ヶ月が経ち、現在、大学ではこんなに勉強しなければならないのかと驚いています。クラスのディスコード通話で友達も増えました。高校の時に貯めていた、大学でやりたいことを次々消化しています。鍋プリンや一食まるまるじゃがバターなど、人生の夢を叶えています。3Dモデルを勉強したり、友達と夜にマイクラフトをしたり、寮で農業したりして楽しんでいます。毎日もっと面白いことはないか考えて過ごしています。今後、リアル脱出ゲーム参加や個人ゲーム作成、電子工作などをしてみたいと思っています。サークルはあまり参加していませんが、後期からもっと参加したいとおもいます。漫画を読みつつアニメを見つつ、なるべく好きなことだけしていけるように頑張りたいと思います。また、この中のどれか一つでも、この文を読んでいる人が興味をひかれてくれればいいなと思います。

ほさか たけひろ <保坂 武宏 ~7組クラス有志>

第129期7組クラス幹事を務めることになりました保坂武宏です。現在、東京工業大学理学院に所属しています。理学院は他大でいう理学部のようなところで、今後は数学系に進み、数論幾何学を学びたいと思っています。高校・大学共に将棋部に所属しており、最近のトレンドは右玉(みぎぎょく)です。この戦法は私の棋風に合っており、指していて楽しいです。コロナ対策で授業の3/4ほどがオンラインになっていて、朝に弱い私にとっては嬉しい限りです。コロナが収束しても、オンライン授業だけは是非継続してもらいたいです。ところで、猫は「自分の名前」も「飼い主の声」も分かって無視しているそうです。そう考えると、名前を呼んだら返事をしてくれる、そばに来てくれる猫というのはやはり珍しいのかもしれない。私はそっちの方が好きです。まあ猫を飼ったことはないですが、中々思い通りにいかない世の中ですが、頑張っていきたいと思っています。

はやかわ はじめ <早川 創 ~8組クラス有志>

順天堂大学医学部 ...

わかい ちか <若井 知佳 ~9組クラス有志>

大学:お茶の水女子大学生生活科学部食物栄養学部、高校時代部活:男子バレーボール部マネージャー 129期卒業生の若井知佳と申します。私はこの春からお茶の水女子大学に進学しました。お茶の水女子大学では1年生でまだ専門の授業は少ないですが、栄養や食に関することを学んでいます。自分の将来の目標である、「食ではなく食で人の健康を支える。」を叶えられるよう、これからも勉強を頑張っていきたいと思っています。今、東京ではコロナの影響で思うように大学に行けなかったり、サークル活動が制限されたりしています。その状況を考えて高校時代に男子バレーボール部の活動を熱心に取り組めたことは貴重な時間だったと感じます。このような状況でも、関東圏に進学したバレー部の仲間と会うことができたり、さまざまな大学に進学した仲間とzoomを使って話すことができたりと感謝しています。大学では勉強だけでなく、様々な人と交流も深めていきたいです。今回はコロナの影響で総会・新人歓迎会が延期になってしまいましたが、コロナが落ち着いたら参加できることを楽しみにしています。

“2021年 ~ 2022年「からだ美人.COM」から”

編集:工藤義夫(事務局)

**新潟女子は
~こころもからだも健康美人~
ヘルスケアナビゲーター
◀ 青山102期 鈴木 優子 (旧姓) ▶**



そもそも高校時代は・・・

授業が終わると柔道場に直行！柔道部の練習に明け暮れる毎日で、教室で過ごす時間より、柔道場で過ごす時間の方がはるかに長かったように感じます^^;

社会人になってからは「人と競うスポーツではなく、自分と戦うスポーツがしたい」と考えるようになり、トライアスロンやマラソンを始めました。

どんどんトライアスロンやマラソンのおもしろさにはまり、自分でもびっくりすることに、2013年にはトライアスロンロングディスタンス世界選手権の日本代表として、海外レースに出場するこままでできました。これもひとえに、柔道部の顧問であった佐々木睦夫先生に鍛えられた「根性」の賜物だと思っています。笑！



こんにちは ♡

青山102期生の鈴木 優子です！

高校卒業後に学んだ心理学や健康科学を生かし、治療院やスポーツジムなどでの経験を積んだ後、現在はフリーでヘルスケアナビゲーターとして、都内や横浜などで

- ランニング・ウォーキングレッスン
- 観光ラン・ウォーキング・サイクリング企画
- スポーツイベントMC

などを行っています口

この活動を通しての一番の目標は、外見だけの美しさではない、こころも体も健康で美しい、そして女性も男性も関係ない「からだ美人」な仲間を増やすこと！

合言葉は
楽しく！笑顔で！いくつになっても！

活動あれこれ・・・

「もっと速くなりたい！」という中級者以上のランナーさんだけではなく、「これからランニングやウォーキングを始めたい！」という初心者さんのレッスンを特に大事にしています。せっかく運動に興味を持ってくれた方々に、怪我なく運動を長く続けてもらうためにも、楽しくて分かりやすいレッスンを心がけています◎

また千代田区観光協会での仕事もしており、観光ランや観光ウォークのガイドとして、ランナーの聖地と言われる「皇居」ランニングの案内をしたり、江戸・東京の歴史と文化に触れる千代田区ぐるりサイクリングツアーの企画や運営などにも携わっております。



さらに今年の春からは・・・

スポーツと健康、両面からのアプローチをするために、東京・築地にある治療院「カイロプラクティック・ポノ」にて、ランニングやノルディックウォーキングの指導も行っています。

健康であるためのコツは「よく食べ(食事)、よく動き(運動)、よく寝る(休養)」ことだと思っていますので、カイロプラクティック治療で全身のバランスが整った状態をさらに健康的に維持するためのお手伝いとして、これらの指導に取り組んでいます！

隅田川沿いの心地よい川風の中で行うレッスンはとても清々しくて気持ちがよいものなので、私自身もますます健康になれる気がしています口

◆ カイロプラクティック・ポノ ◆
〒104-0045
東京都中央区築地4-12-2 シグネットビル201
☎03-6260-6036



東京青山会の女子力★2017年秋デビュー



プロフィール

【学歴】

- ・早稲田大学人間科学部 人間基礎科学科卒業
- ・オーストラリアメルボルン州立RMIT大学日本校 健康科学部健康科学科卒業

【保有資格】

- ・日本体育協会公認 トライアスロンコーチ
- ・ノルディックウォーキング協会公認指導者
- ・FLAネットワーク協会公認 食生活アドバイザー
- ・産業カウンセラー



詳細はHP【からだ美人.com】⇒

“2021年～報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から” 編集:工藤義夫(事務局)

【日本文化私観】(坂口安吾)
を読み解く～コロナ禍のいまこそ
2021.06.21 DAIAMOND誌

コロナ禍の今こそ、坂口安吾の
「痛烈な日本文化観に学ぶべき理由」
『日本文化私観』坂口安吾著(岩波書店)

今回は、無頼派、新戯作派の小説家であり、戦後に『墮落論』で時代の寵児となる坂口安吾の『日本文化私観』を探り上げる。これは1936年に出版された、ドイツ人の建築家であるブルーノ・タウトの『日本文化私観』が日本において大評判となったのを受けて、書かれた文章である。安吾はタウトの言説に良い意味でも悪い意味でも刺激を受けた。彼にとっては、タウトとは別の観点から「私観」を述べなければならぬ必要を感じるのに十分な理由があったのだ。折しも当時は戦中戦後の混乱期と大変革期であり、コロナの影響下にある現代との共通点もある。安吾の日本文化についての解釈は、今何を価値判断の基準にしてよいか迷える私たちにとっても、格好の指針になるように思われる。

タウトは、浜離宮に表現される深い精神性に感動して涙をこぼしたという。日本の建築、なかでも床の間に、透明かつ単純化した形式美を見出し、そこに日本文化と日本の伝統を「発見」したのである。彼は自分が発見した日本文化とその美意識にあうものを称賛した一方で、自分の美意識に合わないもの、たとえば俗なるものの混入や、欧米の猿真似を「イカモノ」として切り捨てた。彼の賞賛したものは日本文化の一面だけだったにもかかわらず、彼の文化論は、日本の読者に「ありがたい」と歓迎されたのである。



《安吾とは》

本名は坂口炳五、1906年10月新潟市西大畑通生まれ。1955年2月桐生市で歿48歳。13人兄妹の12番目の五男。先祖は旧

阿賀浦村の富豪の旧家、祖父の代で投機失敗、父は漢詩家人、政治活動で家財傾く。新潟中学では近眼で眼鏡が買えず成績降下、2年で落第。豊山中に転校、東洋大哲学科へ。新潟日報社長の長兄の影響などで文学や宗教、詩歌、日本史にも目覚める。豊山中は時代は、野球・角力・陸上にも熱中、走高跳では全国優勝も。結婚後は桐生市で執筆活動。安吾は酒飲みだが、妻は下戸だった。安吾歿後、妻・三千代は銀座で文壇バー「クラクラ」を経営。自伝的エッセイ「クラクラ日記」を上梓。



新潟市護国神社裏の寄居浜砂丘の松林「坂口安吾詩碑」

西洋に「発見」される 日本像に疑念を抱いた安吾

安吾は、タウトが発見した日本文化なるものが、果たして本当に日本の伝統的なものであり、かつ日本人の精神性が表象されたものであるのかについて、疑問を持った。

あるときタウトは、富豪に招かれた。富豪は自分の持つ掛物を次々と披露し、人を喜ばせ、茶の湯と礼儀正しい食膳を供したという。

「こういう生活が、『古代文化の伝統を見失わない』ために、内面的に豊富な生活だと言うに至っては内面なるもの目安が余り安直で減茶苦茶な話だ。」(以下引用はすべて『日本文化私観』による)

中途半端な似非インテリの浅薄な日本文化の理解(のちに言われるようなオリエンタリズムの一種)であり、せいぜい金持ちの道楽レベルの美意識を日本文化と呼んでいるのではないかと、ということである。さらには、タウトが重要視する建築についても、構造物としての表象には、人工的な思考の枠組みを持ち込みやすく、その枠内で造った空中の楼阁に過ぎない、と安吾は考えたのであった。

「南画などに表現された孤独な思想や精神を林泉の上に現実的に表現しようとしたものらしい。茶室の建築だと(寺院建築でも同じことだが)林泉というものは、いわば思想の表現で自然の模倣ではなく、自然の創造であり、用地の狭さというような限定は、つまり絵に於けるキャンパスの限定とおなじようなものである。(中略)林泉の孤独さなどというものがいかにヒネクれてみたところで、タウトが知れている。(中略)林泉や茶室というものは、禅坊主の悟りと同じことで、禅的な仮説の上に建設された空中楼阁なのである。」

桂離宮も日光東照宮も 「人工的なもの」は美的ではない

その点、芭蕉や良寛などの日本の伝統的な精神生活者は、少しの人工性を容認しないものであり、タウトが嫌う日光東照宮の豪華な装飾も、タウトが絶賛する桂離宮も、そこに人工(人工)の気配があるという観点から考えれば、同じで堪えられぬものであった。「彼等(芭蕉や良寛など)は、その精神に於て、余りにも慾が深すぎ、豪華でありすぎ、貴族的でありすぎたのだ。その絶対的のものが有り得ないという立場から、中途半端を排撃し、無きに如かざるの清潔を選んだのだ。無きに如かざるの精神にとっては、特に払われた一切の注意が、不潔であり、饒舌である。床の間が如何に自然の素朴さを装うにしても、そのために支払われた注意が、すでに無きに如かざるの物である。」

安吾は、「日本の伝統」にも疑問を投げかける。着物を着ることが伝統だと思われているが、果たして日本人にキモノを着なければならぬ必然性があるのか。ただ洋服との邂逅の機会がなかっただけではいかかというのである。たとえば、古来の物語では、日本人は仇討ちに命を懸けるということになっている。それを真に受けるに、日本人は執念深い民族ということになるが、そんなことは実際にはまるでない。他の民族と違ってすぐに忘れてしまう。

伝統だと言われているもののなかには、明らかに恣意性や欺瞞性があり、ある一定の目的に人を誘導するためにあえて「フェイク」の自己定義をしている可能性がある。だから、そうしたフェイクかもしれない「伝統」を「伝統だから」という理由であがめる必要はないという。

その一方で、伝統や伝統の持つ「型」には力があるとも指摘する。「座敷でベチャクチャ喋っていたり踊っていたりしたのでは一向に見栄えのしなかった舞妓達が、ダンスホールの群衆にまじると、群を押し、堂々と光彩を放って目立つのである。」

著者が目撃したのは、お座敷ではたいした芸もなく、冴えない舞妓たちが、ダンスホールに着物で降り立った途端に、ドレスで踊る淑女たちをその「伝統」の力で圧倒した姿であった。同様に相撲の力士が国技館で型通りの振舞いをすることも、周囲を威圧するという。長い年月を経て生き残ってきた伝統とその型には、見るものを引き付けずにはおれぬ何かがあるのだろう。

本当に必要なのは「実質」 真の美はそこにこそ生まれる

しかし、安吾はこうも言う。本当に必要なのは実質だと。実質がなければ、伝統も命を失う。実質とは何か。安吾にとっての実質とは必要のことである。人が心から必要と思ひ、その実現に向けての思いがあり、エネルギーが掻き立てられる何かである。

(ときとして、ただひけらかすために)知的に構成された熱量の低い人工的なものではなく、人がそこに存在する聖い何かである。

そこには俗と烈との区別がない。安吾は俗を肯定する。欧米文化の猿真似であってかまわない。彼は、人が必要のために、悲願や情熱を持っているかどうかを見る。さらには、そこに美的でありたいといった作為性のかけらすらないことを要求する。そうすることで初めて真の美が生まれるという。

「美しさのための美しさは素直でなく、結局、本当の物ではないのである。要するに、空虚なのだ。そして、空虚なものは、その真実のものによって人を打つことは決してなく、詮ずるところ、有っても無くても構わない代物である。」

具体的に安吾が美しいとして挙げるものは、小菅の刑務所、佃島のドライアイスの工場、帝国の軍艦であり、鍛え抜かれたオウエンス(ベルリン五輪の4冠金メダリスト)の肉体である。

「小菅刑務所のこの大建築物には一ヶ所の美的装飾というものもなく、どこから見ても刑務所然としており、刑務所以外の何物でも有り得ない構えなのだ、不思議に心を惹かれる眺めである。」

安吾が惹かれる美しいものは、タウトが賞賛した観念が作り出す美ではなく、機能美のことであった。「ただ『必要』であり、一も二も百も、終始一貫ただ『必要』のみ。そして、この『やむべからざる実質』がもつた所の独自の形態が、美を生むのだ。実質からの要求を外れ、美的とか詩的という立場に立つて一本の柱を立てても、それは、もうたわいもない細工物になってしまう。」

これが安吾の美意識であった。

現代の「知性」もどきを 安吾ならどう喝破するか

さて、現在、ビジネス社会などにおいて、工業化時代とは違う新しい時代が確実に来つつある。西欧からの知に過去が否定された明治期や戦後のようでもある。知的で、美的で、クリエイティブで、洗練されていることが重要であり、過去に重要視されていた、勤勉、愚直、泥臭さ、フットワークなどは、俗なものであり前時代的なものとして排除されつつある。多くの人がそれらの変化に対応できず、苦しんでいるようにも見える(私も苦しんでいる)。

さらに悲しいことに、知的で、美的で、クリエイティブで、洗練されていなければならないと強迫する者がいる。てっとり早い「教養風味」をまぶしただけで、大して実質がないにもかかわらず、そのような姿を大衆向けに上手に演出し、憧れの対象になっている人もい。

そうかと思えば、過去の伝統を自分勝手に不適切に援用し、外国人向けに偽装した浅薄な日本文化を拡散し、悪びれない者もいる(その最も卑近な例は「日本スゲー」と言った心性だろう)。時代の精神性が良くない方向に進んでいるように思える。

安吾なら、このような状況をどう評するだろうか。必要だと思うことを一切の美的な潤色なしに呵責なく書くのが安吾である。冒頭から「君たちには実質があるか」と問うてくるかもしれない。戦後、勤勉さ、泥臭さを伴った働き方を伝統として正当化してきたのかもしれないが、それは本当に伝統だったのか、そこに必要はあるのか。そして、それをする君たちにはエネルギーがあるのか——。そういうことを問うだろう。

「猿真似はしているか」と聞かもしれない。新しい文化が生まれ、入って来ているのだから、どんどん試して吸収すればよいではないか。日本の伝統の1つは、外から入ってきた新しい思想や道具を節操なく受け入れ、内化し、見事に日本化してしまうことだ。その節操のなさを思い出せとも言うかもしれない。洗練を目指しても最初は悲惨なことになるだろうが、時を経ると血肉になる。

“2021年～報道「青山縁の方」” 編集:工藤義夫(事務局)

コロナ禍の今こそ、坂口安吾の「痛烈な日本文化観に学ぶべき理由」『日本文化私観』坂口安吾著(岩波書店)

前頁から続く→→ 日本の洋服文化はいまでは世界で最も注目されている。タウトが小馬鹿にした猿真似の宝塚少女歌劇団(当時の名称)は独自の発展を遂げ、いまや日本を代表する文化となった。そして、そうなるまでには、実質を実現せんとした人の情熱があったのだ。我々をもってできないことはない。猿真似万歳である。

伝統はつくるものではなく 実質としてそこにあるもの

新たに一からやり直せというかもしれない。安吾はこうも言っていた。「京都や奈良の古い寺がみんな焼けても、日本の伝統は微動もしない。日本の建築すら、微動もしない。必要ならば、新たに造ればいいのである。」個人的には、奈良で生まれ育った私にとって、古都の仏像は人生にとって何よりも必要なものである。焼けたら困る。芭蕉や良寛のような優れた感性はないので、具体的な仏像の姿を見て初めて抽象的な概念の存在に気が付く。

中宮寺の半跏思惟坐像(弥勒菩薩)の造形によって、初めて時空を超えるイメージが湧き、慈愛の本質が感じられるのだ。私などはそこに意味を感じて終わりだが、昨今の目には利く頭のよい人たちは、仏像に見られるような概念を表象化したり具現化する技巧のエッセンスを集め、「〇〇思考」などという方法論に仕立て、ビジネスに応用したりするだろう。安吾が、その抜け目ない「伝統」や「技巧」の活用を「否」というのか、それとも、そこにその人たちの必要性や合理性を認め「諾」というのかはわからない。少なくとも人間の放つエネルギーを感じ、ニヤニヤくらいはするだろう。

迷い多きコロナ時代を 生きぬく応援歌

「人間は、ただ、人間のみを恋す。人間のない芸術など、有る筈がない。」

神出鬼没な戯作者のイメージで語られ、現実主義と理想主義、合理性と神秘性、多様な観点から変幻自在に多様な語りや評言を操る著者についての的確に表現することは、文学の研究者ではない私の手には負えない。ただ、安吾の語りはいつも鋭く、厳しく、しかしとても温かく感じられる。

本書も、語られているのは日本文化のはずなのだが、あたかも、私たちが迷い多きこの現代を生きるのに、なにをよすがにすればいいのかを示し、また、複雑な情報化社会の中で、どこに立ち返って物事を見、考えればいいのかを語ってくれている気がする、不思議な文体なのだ。

コロナ禍の状況下、心が荒むことも多い今こそ読みたい、応援歌のような著作である。

◆(プリンシプル・コンサルティング・グループ株式会社代表取締役 秋山 進、構成/ライター 奥田由意)◆

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

余談 ◆瀬戸内寂聴さんの言葉◆

坂口安吾が一番好きな作家。……安吾の作品は伝統や権威に対し自分の心の命ずるままに生きていけばいいと教えてくれました。その通りに生きてきたので、受賞を心から喜んでます。



(2008年10月掲載 =第3回安吾賞の受賞発表会で)

(耕論)「外圧」の正体 <コロナ禍の東京五輪>

2021.7.21 朝日新聞

斎藤美奈子 ; 83期

コロナ禍の東京五輪開催をめぐり、「外圧」という言葉が久々に注目された。

推進派も反対派も、外からの声事態を変えてくれることを願った。2021年のいま、外圧の正体とは何か。



◆斎藤美奈子;「内圧で鈍感社会を変える」1956年生ま

れ、「挑発する少女小説」「中古典のすすめ」等著書多数。「文章読本さん江」で小林秀雄賞。

戦後間もないころに文化人類学者のルース・ベネディクトが「菊と刀」で論じたのは、日本の特徴は「恥の文化」だという話でした。内なる神との対話を通じて善悪を判断する「罪の文化」とは違って、外目を気にし、それを自らの行動規範にする文化が日本にはあると。

この考え方に立てば、日本は外圧を気にする国であるという見立ても確かに、もっともらしく見えてきます。

でも、本当にそうかな、とも思います。日本って、人種やジェンダーといった面で驚くほど世界からの声に鈍感でしょ？思わず「もうちょっと外圧を気にしろよ」と言いたくなってしまふほど。

死刑制度の継続に、夫婦同姓の強制、LGBTへの差別に、外国人の長期収容問題…。国連や国際社会から何度見直せと言われても全く変わらうとしない。その鈍感さこそが、私には不思議です。

外目を気にするように見える割に、他人の話に耳を貸さない。「外国からの規範の押しつけに屈するな」という声が出る。おそらく足りないのは、自省の作業でしょう。自らの制度や道徳基準とすりあわせてどうなるか、の吟味が起きない。棚ぼた民主主義の国家だからなのかな、とも思うけれど。

ジャーナリストの伊藤詩織さんが自らの性被害を訴えたとき、最初に反応したのは海外メディアでした。東京五輪の大会組織委員長だった森喜朗元首相の「わきまえている」女性発言も、強い批判はまず海外から来ました。

国内メディアの鈍感さこそを問題視すべきだと私は思います。何かが一見「外圧」に見えるのは、単に、ある問題の所在が国内で可視化されていなかったせいかもしれない、と思うからです。

実際、性的嫌がらせに苦しむ人々も、性被害を告発できなくて絶望している人々も、日本にはそれ以前からいました。深刻な問題と認識してもらえず、被害に遭った個人がそれぞれ孤独な闘いを強いられる社会だったから、「見えていなかった」のです。

セクハラという言葉が日本で流行語になったのは今から約30年前でした。「ヘイトスピーチ」も「#MeToo」もそうですが、問題を可視化してくれるツールが海外にあって、それが国内で紹介されることは、「自分は孤独な闘いをしている」と思っていた人に「実は世界中で多くの人が闘っているんだ」という気づきと勇気を与えます。

外圧だけでは社会は変わりません。それに呼応する動きが内側に存在することで、社会は確実に変わっていく。内にある声を可視化して、共有していくこと。「内圧」や「民圧」をきちんと社会に反映させる作業から始めていけばいいのだと思います。

『就職・2022春』 <楽天で働き始めました>

2022.4 <青山126期> 長浜朱音

青山同窓会 126回卒業生 長浜朱音

皆さま、初めまして。126回卒業生の長浜朱音と申します。新人歓迎会において皆さまの前でご挨拶をさせていただいてからはや4年が経ち、この春、社会人になりました。就職活動中はこれまでの経験や、私という人間について真剣に向き合う時間が多く、改めて新潟高校で過ごした時間の存在の大きさに気付かされました。特に、1年生の時に参加したアメリカ研修は、私の価値観に大きな変化を与えてくれた貴重な経験の一つです。日本とは少し違ったフレンドリーな雰囲気魅了され、英語によって現地の方と交流できることはもちろん、様々な国から来ていた留学生と意見交換する中で狭かった世界が一気に広がりました。「もっと英語を勉強して視野を広げたい。異文化への理解を深めたい。」この想いから、英語圏の文化や文学作品、言語そのものについて学ぶことができるお茶の水女子大学に進むことを決めました。大学4年間は興味のある分野の学問に専念し、切磋琢磨できる友人と出会い、とても充実したものでした。特に印象に残っている思い出は、短期留学でオーストラリアに行ったことです。



豪・ゴールドコースト

国籍も年齢も異なる学生と共に語学学校の課題に取り組む中で、多文化共生の難しさや、一方で異なる価値観を持つ仲間が集まることで新たなシナジーが生まれることを実感しました。大学で身につけた英語のスキルや異文化理解について学んだこと、留学経験を活かして、これからは「Diversity

(多様性)」を尊重するIT企業で社会人としての新たな一歩を踏み出します。4月1日、厳重なコロナ対策のもと対面での入社式が実施されました。たくさんの同期と直接会い、社長のお話を拝聴し、「より良い世界の実現に貢献したい」という大きな目標を叶えるステージに立ったのだと感じ改めて背筋が伸びる思いがしました。期待感が高まる反面、不安も少しありますが、どんなことがあっても強くてたくましい「丈夫魂」を持って乗り越え、さらなる努力を続けていきます。

2018年6月の東京青山同窓会・歓迎会で挨拶をする。



“2021年～報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から” 編集:工藤義夫(事務局)

「新刊」の紹介
＜実力大学をどう創る＞
2021.10.14 猪口孝(70期)


猪口孝 著『実力大学をどう創るか：ある大学改革の試み』桜美林大学出版会

この本は、私が学長兼理事長として新潟県立大学で8年間観察したものを書き綴ったものである。私の通った小学校や中学校、高等学校から歩いていける距離にある坂口安吾の石碑には「ふるさとを語ることなし」とある。これは愛着の一つの表現ではないのか。新潟の未来はどうしようもないから執着するなという意味ではないのか。解釈は別れる。私は後者の解釈に傾いていた。就任当初、入学式は石油ストーブ数台だけの冷たい風の入る体育館で行った。入学式が始まって、新入生代表(入試で第一位の方)が前に出て私に向かって挨拶をした。「入学できてとても嬉しく、これから新潟県立大学で勉強できることを誇りに思う」などと言う。しかし私には、その少し固い表情の中に悔しさや悲しさが見えた。きつと心の中では、入試でミスをしなければ第一志望や第二志望の大学に入れたらうに、などと考え残念でたまらなかったのだろう。翌年も同じような新入生代表挨拶を見た。そこで、私は次のような行動を取った。

- 1.他の大学が入試を予定していない日に3回受けられる入試をする、
- 2.ベストチューデント賞を毎年100名から200名に出す。
- 3.ベストティーチャーズ賞を毎年5～10名に出す。
- 4. 研究者には、文部科学省の科学研究費に応募することを執拗に勧めた。

4年経って見たらどうなったか？入試倍率も偏差値も着実に上昇し、新潟県内のみならず東京の上場企業などに就職する学生も増えて善戦した。外国や東大大学院や海外の大学院に進学する学生も出てきた。科学研究費を受けている研究者が最初は数人だったが、数年後には20名を越えた。

大学の財政規模はとても小さく、地震時には体育館が危険だと役所に言われたら使用禁止にするしかなかった。厚生労働省から、実験施設の衛生状態が十分に良好に保たれていないと言われ、使用禁止にするしかなかった。予算がなかったのだから。でも学長として、すぐにできることがあるはずだと考えた。建物を新しく作るうとして財政規模の拡充を求める議論をするのは一案だった。しかし、長期的、短期的に無理なことは明らかであった。大学が一番必要していることは、学生や教員と職員が大学を誇りに思えることではないか、と思うに至った。お金を使わなくてもできることは何か。それが上記4点であった。毎年250人くらいずつ学生が増え、4年経って卒業式を初めて行った。それは初めての入学式とは大違いであった。不満やあきらめ、くやしさではなく、明るく前向きな表情があふれた卒業式であった。大学が変われば、世間の見る目も変わってくる。自分が歩んでいる道に自信を持てるよう励ます事が一番大切である。



ある大学改革の試み
猪口孝
実力大学を
どう創るか

東大名誉教授
政治学・国際関係論
＜本会・前会長＞

南場智子氏・経団連副会長就任
内定後に語った～意欲とは～
GAFA匹敵の日本発スタートアップ
青山89期 2021.6.1 ハフポスト日本版

1962年新潟市生まれ。86年津田塾大卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。90年、ハーバード大でMBA取得。96年マッキンゼーでパートナー就任。99年DeNAを設立。2011年社長兼CEO退任。現在会長。2015年から横浜DeNAベイスターズオーナー。



6月1日に開かれる経団連の定時総会で、DeNAの南場智子会長が副会長に就任する。経団連で、副会長に女性が就任するのは初めて。

3月末に配信されたハフポスト日本版のライブ配信番組「ハフライブ」では、『「女性初」というラベルよりも、何をやるかの方が大事」だとして、「日本からポストGAFAに該当するスタートアップを出していく。そのためにできることは何でもやっていきたい」と意欲を語っていた。【中村かさね／ハフポスト日本版】

南場氏は経団連の変化の象徴

経団連は、重厚長大型の製造業や旧財閥系の商社や金融などが中心で、これまでの正副会長はいずれも男性ばかりだったが、今回の人事では、これまで会長や副会長を輩出してきたトヨタ自動車も初めてはじめて正副会長を外れることになった。

南場氏の副会長就任は、女性というだけでなく、1999年設立のITベンチャー企業・DeNAから副会長が輩出されたという点でも、経団連の変化の象徴といえる。

番組で、就任後にやりたいことを問われた南場氏は、ゆっくりと言葉を選びながら「スタートアップの数と規模を拡大していきたい。スタートアップ・エコシステムを日本で、もっと本格的に活性化させたい。そのためにやれることがある」と語った。「スタートアップ・エコシステム」とは、起業家や投資家、既存企業、大学、資金、法規制など様々な要素が



◆経団連の十倉雅和新会長(中央)と新任副会長6人◆
左端が南場智子ディー・エヌ・エイ(DeNA)会長
= 東京・大手町

結びつくことでスタートアップが次々と生まれ、それが呼び水となって優れた人材や技術、資金を呼び込み、スタートアップが活性化する好循環を指す。

「できることは何でもやる」

「スタートアップはその国のイノベーションや経済成長のドライビングフォース(推進力)。経済のど真ん中になってはいけない」「どの時代でもイノベーションの担い手は、スタートアップだと思う。日本はユニコーンの数もVCの投資額も少ない。起業家志望者も少ない。何とかしないと」番組中、スタートアップの可能性について何度も強調した南場氏。日本はベンチャーキャピタル(VC)による投資金額やユニコーン企業(評価額が1000億円を超える設立10年以内の未上場スタートアップ企業)の数が海外と比べて極端に少ない。「日本からポストGAFAに匹敵するスタートアップを新しく出していく。それには企業数や投資額などの量も重要。そのためにできることは何でもやっていきたい。できることはいっぱいある」企業リーダーとして、経団連の新副会長としての目標を問われ、こう締め括った。

「新卒一括採用は相当に問題」

スタートアップを活気づけるために、南場氏が番組内で指摘した障壁は「新卒一括採用」制度だ。「新卒一括採用は相当に問題だと思っています。職業観が醸成されない高等教育を経て、就職活動で一流企業と呼ばれるところに入る。エリートのレールに乗るには一度のチャンスしかない。大反対です」

「卒業してから、『少しスタートアップ覗いてみようかな』とか、『起業してみようかな』というのを2～3年やって、その後でもいつでも(企業に)入れるというようにしないといけない。選択肢が狭められない社会にしたい。そういう経験をして入ってきた人材は競争力もあり、強い」ただ、新卒一括採用をめぐる変化の兆しもある。経団連は2018年に、21年春採用から「就活ルール」廃止を決定。新型コロナによる混乱を避けるため、2024年春入社組までは面接を6月に解禁する現行ルールの維持が決定しているが、25年春卒以降、就活ルールが抜本的に見直される予定だ。

中村かさね(Kasane Nakamura)

年会費納入者 ; R3.4.1 ~ R4.3.31

本会は、皆様の年会費で運営しています。ぜひご支援ご協力をお願いします。

- 50回(1名) 村山 一
51回(1名) 北村 茂
52回(1名) 廣川 勲
53回(2名) 中島恒雄 堀 時雄
54回(5名) 赤坂長弥 網干道雄 井上菊雄 加藤勝則 皆川正男
55回(7名) 梅沢貞雄 岡田 久 小村幸久 茂泉彦彦 高橋晴夫 長橋敏雄 納谷喜郎
56回(8名) 笠原 功 金山常吉 杉野剛博 高城英雄 中田 亨 長谷川秀三 早川貞夫 丸山敏視
57回(13名) 安宅 久憲 安藤 友憲 草間 光俊 熊谷 隆幸 佐藤 敏夫 小林 孝司 小林 元雄 杉山 由 田中 宣 徳田 晋也 長沼 雄峰 村岡 公夫 村山 健
58回(9名) 石黒 恒 内山隆之 小池健治 近藤哲朗 鈴木 勉 曾我 健 帆刈宏典 渡辺千里 渡辺真英
59回(3名) 浅野康一 市川瑞夫 馬場政説
60回(13名) 植村頼音 遠藤治一 太田健治 坂井俊一 佐藤 章 佐藤茂司 清水良男 須田嶺治 高橋正幸 藤澤靖郎 星 滿 樹瀧晴夫 松田 勲
61回(8名) 安藤宜清 五十嵐徹 佐藤武行 鈴木衛士 濱田庄市 村木利夫 山本和親 横山修二
62回(4名) 石山芳春 稲月喜一 高橋 守 吉田六左門
63回(11名) 石井幹男 岡崎 功 小野勝義 片山忠一 北村紘一 清水雄伍 高野宏一 鶴賀政行 寺井 宏 前田康久 三堀 浩
64回(8名) 上村嶺子 草野 佐 小日向信光 重野康人 竹石 肇 長沼誠二 濱田庄司 渡邊千藍
65回(6名) 青木利祐 小黒朋弘 佐藤孝靖 高木敏之 永井晴美 矢川一義
66回(6名) 池田好正 猪口 孝 鈴木正俊-1 鈴木正俊-2 渡辺允雄 渡部美那実
67回(10名) 有箇順子 五十嵐 正 大塚恵子 笠井 忠 木戸 守 白鳥十三 高木久夫 橋爪博美 服部 昭 馬場俊博 萬歳信行 藤井建一 藤縄利勝
68回(39名) 青山耕一 浅妻厚 明村澄雄 阿部令一 阿部緑生 天野直二 板羽 健 岩橋俊朗 大竹力三 大山哲司 尾張明美 加澤正樹 加野裕資 賀谷彰夫
69回(5名) 雨宮則夫 飯村 修 田辺研吉 山田美成 岡川弘道
70回(45名) 藍沢幹人 味方 洌 池 一 池田正行 池田 裕 石井 明 石川克彦 石山 范 和泉 潤 井上裕子 岩城修平 薄田祥子 大石憲一 大滝 均 片野忠一 加藤 博 菊池 隆 工藤義夫 解良和郎 小林淳子 坂井 靖 坂爪久男 齊藤一幸 佐藤栄次 佐藤信秋 佐藤正也 島津満里子 関川修一 高橋信郎 高橋 保 田村栄作 土屋彰義 堤 美 中村義一 西田百合子 西脇 清一 沼田 清 橋本昭一郎 原 信一 萬歳美美子 三田村健一 横川三男 若林源基 渡部終一 渡部終五-2
71回(13名) 青木隆次 大霜博之 長 正子 川名正敏 小林美亮介 清水洋一 竹本泰子
72回(6名) 荒川 洋 越野昌芳 玉木勝一 成海孝二 山田 徹 鰐淵 博
73回(8名) 小亦 斉 日下部朋子-1 日下部朋子-2 斎藤 滋 内藤 理 西山活子 福嶋元 宮村伸一
74回(10名) 浅岡芳朗 遠藤徳広 小松澄子 木下康司 佐藤 扶 佐野美-1 高山佳郎-1 高山佳郎-2 豊田 清 野呂咲人 山口虎彦
75回(8名) 赤塚徳子 朝倉仁樹 唐澤亜弥子 小島秀子 新宮和生 野田正巳 野口俊介 嶋 昌樹
76回(9名) 浅田浩義 荒井裕子 今井豊重 奥村 基 塩田拓哉 田村 誠 森 大輔 渡辺友紀子
77回(10名) 石丸隆夫 宮腰重三郎 吉井正行
78回(3名) 清水忠明 南 正人 渡辺政城
79回(3名) 今井信一郎 大越健介 小竹 聡
80回(4名) 岩野尚子 山田信也 山田敏昭 渡邊克彦
81回(13名) 歌代幸子 勝山達志 木村和人 小林 到-1 小林 到-2 小林美奈子 斎藤 彰 斎藤結花 中村泰 樋口正史 森 豊 渡辺修也 渡辺正明
82回(1名) 真保恵美子
83回(2名) 白坂和久 前田光俊
84回(3名) 海部真美子 小松朋子 藤沢健司
85回(2名) 浜田恒平 増子則義
86回(2名) 君和田俊裕 町田清彰
87回(2名) 吉原貴之-1 吉原貴之-2
88回(6名) 浅香美貴 小田和哉 折笠智則 片桐朋美 後藤 卓 鈴木由貴子
89回(1名) 尾口優子
90回(2名) 石崎 徹 酒井優理子
91回(1名) 水間有紀
92回(1名) 会田俊貴
93回(1名) 嶋 孝哉
94回(1名) 柄澤秀親
95回(1名) 押木淳
96回(1名) 五十嵐将
97回(1名) 寺井 悠
98回(1名) 坂上真樹
99回(1名) 長浜朱音
100回(1名) 真貝愛子
101回(1名) 石黒日奈子

- ◆その他
複数年前納者(合計除外)
72回 西村正徳(5年分~2021)
74回 岡村康生(5年分~2022)
74回 青海 潔(5年分~2024)
74回 川田澄子(5年分~2022)
84回 星野紹英(25年分~2045)
80回 長 正子(3千円)
◆ご寄付
◆池一・新副会長選任時◆
2008年(平成20年)11月総会、栗林貞一氏から猪口孝氏への会長交替決議時の記念写真。
前列左から、栗林貞一(59回・名誉会長)、猪口孝(70回・会長)
後列左から 池一(74回・幹事長)、西村正徳(72回・副会長)、佐藤茂(77回・会計幹事)、日下部朋子(82回・事務局長)(役職はいずれも当時)

◆会計報告 ; 2021年度決算等◆
監査承認済抜粋をご報告します。総会(時期未定)不開催時には、以下にてご承認をお願いします。

Table with financial data for 2021 and 2022. Columns include Summary, FY2021, FY2022, and Remarks. Rows include Balance Forward, Receipts, Payments, and Balance Forward.

◆◆◆◆◆

会員ご訃報
(敬称略)
R3.4~R4.3月までに事務局にお知らせいただいた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

Table of obituaries with columns: 卒回 (Obituary Number), 御氏名 (Name), 逝去日 (Date of Passing).

追悼 ; 池一前・副会長

東京青山同窓会を愛してやまず運営を担当してきた池一(いけはじめ)君・74回卒が3年前難病を発症、それからは、地区活動や趣味のサクソフォンや家族旅行などスローライフを過ごして来たが、徐々に衰え4月5日に亡くなった。ご冥福を祈るばかりです。
<2019.6>
高3生徒会長時、「青陵」名称問題では先頭で運動も。また、軽音楽部「ジョリーチャップス」では華麗にサクソを響かせた。一橋大学卒業後、有斐閣に勤務。東京74期の同期会(酔都志会)にもよく顔を出しては東京青山同窓会に出るよう勧めた。彼の最後のメッセージは【何とか生きています、最後まで青陵健児らしく生きていきたいと存じます。】でした。合掌。記・工藤義夫(74期)

◆池一・新副会長選任時◆



“あの歌の由来 ①「千の風になって」・・・ある青山の人に” 編集:工藤義夫(事務局)

～“あの歌”ができるまで～
<千の風になって>

2021.6 再構成

千の風になって～2001年“歌”誕生

- ◆Mary Frye 原作 1932
- ◆新井満 日本語詞 2001
- ◆新井満 作曲 2001

私のお墓の前で 泣かないでください
そこに私はいません 眠ってなんかいません
千の風に 千の風になって
あの大きな空を 吹きわたっています

秋には光になって 烟にふりそそぐ
冬はダイヤのように きらめく雪になる
朝は鳥になって あなたを目覚めさせる
夜は星になって あなたを見守る

私のお墓の前で 泣かないでください
そこに私はいません 死んでなんかいません
千の風に 千の風になって
あの大きな空を 吹きわたっています

千の風に 千の風になって
あの 大きな空を 吹きわたっています
あの 大きな空を 吹きわたっています

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ I am A Thousand Winds (Author Unknown)

Do not stand at my grave and weep;
I am not there, I do not sleep.

I am a thousand winds that blow.
I am the diamond glints on snow.
I am the sunlight on ripened grain.
I am the gentle autumn's rain.

When you awaken in the morning's hush,
I am the swift uplifting rush
Of quiet birds in circled flight.
I am the soft stars that shine at night.

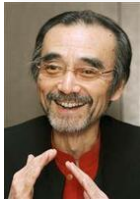
Do not stand at my grave and cry;
I am not there, I did not die.

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

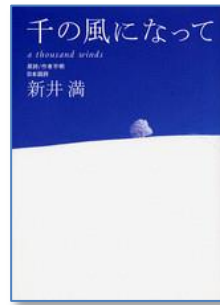
～ 千の風 ～ A Thousand Winds ～

《新井 満(あらいまん) プロフィール》

写真作家、作詩作曲家、写真家、環境映像プロデューサー、長野冬期オリンピック開閉会式イメージ監督など。昭和21年(1946年)新潟市生まれ、寄居中学、明訓高校、上智大学法学部卒業、電通入社、チーフプロデューサー。小説家として昭和63年(1988年)『尋ね人の時間』で芥川賞を受賞。平成15年(2003年)11月発表の写真詩集『千の風になって』(講談社)と、それに曲を付け自ら歌唱したCD『千の風になって』(ポニーキャニオン)は様々なアーティストがカバーし、平成19年(2007年)日本レコード大賞作曲賞受賞。日本ペンクラブ常務理事、平和と環境問題担当。著書多数。『青春とは』(講談社)、『自由訳 般若心経』『自由訳 イマジン』『自由訳 老子』(以上朝日新聞社)、『自由訳 十牛図』(四季社)、絵本詩集『この街で』(PHP研究所)『ふるさとの山に向ひて』(NHK出版)。北海道七飯町大沼地区在。 **2021.12.3逝去。**



千の風になって
文芸(単行本)
訳:新井 満



大切な人をなくした時に、悲しみを癒してくれるのは、この詩かもしれない。悲しみの中で読み継がれてきた一篇の詩があった。

9.11米国の同時多発テロで、父親を亡くした11歳の少女が、一周忌に朗読した。IRA(アイルランド共和軍)のテロで命を落とした24歳の青年が、“私が死んだときに開封してください”と両親に託した手紙の中に、この詩が入っていた。女優マリリン・モンローの二十五回忌に朗読された。

朝日新聞『天声人語』が紹介し、大反響となった“死と再生の詩”作者不明の英語詩を、作家・新井満が日本語詩に。

◆「千の風になって」2006-08-27 ◆
・・・この歌をご存知ですか？

「ワインカラーのとときめき」の作詞者であり、作家やプロデューサーでもある新井満氏が幼馴染(寄居中学等)の川上耕氏(青山74期・弁護士)の奥様(桂子;青山74期)が2001年、癌で亡くなり、ご家族が絶望の底にあり、慰めの言葉以外できることはなかった。奥様は地道な社会貢献活動を行う方で、たくさんの仲間たちが協力し、追悼文集を出しました。「千の風になって～川上桂子さんに寄せて～」という文集です。

その中である人が「千の風」の翻訳詩を紹介していました。新井氏は心の底から感動して「よし、これを歌にしてみよう」と思ったそうです。何ヶ月もかけて原詩となる英語詩をさがし出し、それを翻訳して日本語訳詩を作り、それに曲をつけて歌唱したのが「千の風になって」という歌です。

1000 WINDS BBSには数多く感動のメッセージが寄せられた。「気持ち的には悲しいけれど、命は永遠だと教えてくれている」という感想がありました。形式にとらわれないセレモニーの中でこの詩をご紹介できたら・・・と考えております。心のなかにも「千の風」が吹きわたりますように。

新潟市の喫茶店“器”にて・・・歌

◆千の風になって◆ ～ 新潟市

新潟交通のバスで新津屋小路で降りまっすぐ歩いていくと、大きな通りの向こうに新潟教会の十字架が見えてきます。新潟教会は敬和学園の先生が何人も通っている教会です、日曜日の礼拝には寮生を中心にたくさんの生徒が出席をしています。大通りの一本手前の道の左側を見ますと、そこに3階建ての小さなビルが見えます。建物の横に看板があり、食器の器の一文字が書かれています。

「器」という喫茶店です。読み方は「うつわ」です。喫茶店「器」はクラシックの歌手秋川雅史が歌って大ヒットをした「千の風になって」がはじめて歌われた場所です。「千の風になって」は新潟出身の作家新井満が作った曲です。この曲は新井さんが作ったということからもわかるのですが、新潟は深く関係しています。新井さんの友人で川上桂子さんという人がいました。川上さんは給食をよくなる運動から農業、食物、環境、平和まで「命を守る」運動に熱心に取り組んでいた人ですが、48歳の時にガンで亡くなります。その川上さんの一周忌に追悼文集が出されます。その中に12行の英語の詩が紹介されていました。その詩を見た新井さんは、興味が湧いてきて日本語に訳そうと考えました。

I am not there
I do not sleep
I am thousand winds that blow

出てくる単語、文章は難しくありません。中学校のレベルの英語ということ、新井さんはすぐに訳せるだろうと思いましたが、ところがなかなかうまくいかないのです。困った新井さんはその詩を大きな声で読んでみることにしました。すると、なんだかふっと見えてきたもの、聴こえてきたものがあったのです。新井さんはこの詩のキーワードが「風」だということに気がついたのです。そして、できあがったのが、「千の風になって」です。

「私のお墓の前で泣かないでください。そこにわたしはいません。眠ったなんかいません。千の風になって、千の風になって、あの大きな空を吹きわたっています」。新井さんは訳している最中に不思議な気持ちになったそうです。というのはこの詩の作者が死んだ人だからです。「自分は死んだけれど、風になったり鳥になったりしてけこう元気にしているから、私のお墓の前でそんなに嘆き悲しまないでください」、というように、死んだ人が遺族を慰めているのです。ふつうは逆なはずなのに、ということでも不思議な感じがしたそうです。死んだ人が「風になって」生きている人を慰める、みなさんの中にも不思議だ、変な話だと思う人が多いのではないのでしょうか。

喫茶店「器」 新潟市
中央区宮通1-329



「千の風・基金」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ 秋川雅史 ～ 千の風



世界は絶え間なく戦争が...今年もまた...歌は戦争を止められないが...しかし...

ウクライナ侵攻 2022 ~

なめたらいかんぜよ！ ウクライナを

パンデミック コロナ) 2020 ~

- ♪ 反戦歌 ♪
・Imagine
・Let It Be
・Let It Go
・Triangle
・LOVE

ソ連崩壊 1991 年

ベルリン壁崩 (冷戦終結) 1989 年

ベトナム戦・終 (米軍介入) 1965~1975

- ♪ 反戦歌 ♪
・花はどこへ行った
・勝利をわれらに
・風に吹かれて
・悲惨な戦争
・我が祖国

朝鮮戦争・終 1950~1953

第二次大戦 1939~1945

スペイン風邪 1918~1921

第一次大戦

日清・日露戦争

Table with columns: 洋暦, 和暦, 青山, 学校, 新潟 & 国内, 生まれ世代, 世界. Includes vertical text '時代は巡るく喜びも悲しみも'.

“2019年・報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から”

編集;工藤義夫(事務局)

竹本 恵 (たけもと めぐみ)

◆仕事と家庭の両立「もうだめだ」の先にあるもの◆

～スペインMBA留学記最終回 キャリアとライフプランで一番大事なのは「自分で決めること」～

2019.08.06 日経DOORS

青山107期

新潟高校には3年から編入。青山107回卒、東大野球部。東京六大学野球に投手で出場。教育学部を卒業後、3年間、二輪で世界旅。東大公共政策大学院。日経記者。結婚、出産(2子)、離婚後、子連れでスペインバルセロナにてMBA留学中。



日本経済新聞社での記者の仕事にピリオドを打ち、2018年7月末からスペインのバルセロナへ。ESADEビジネススクールのMBAコースで学ぶ竹本恵さんの連載です。この最終回では、ご自身の結婚・出産、仕事と家庭の両立を振り返り、20～30代の働く女性へのエールを送っていただきます。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

<結婚・出産は頑張った分だけ報われる… わけではない>

いよいよこの連載も最終回となりました。月並みですがこの半年、思い返せばあつという間に過ぎました。新しいことに挑戦する刺激と、その中でも日々の何気ない幸せを存分に味わった期間でした。今回は20～30代の働く女性を応援したいという気持ちを含めて、思いのたけを書いていきたいと思います。

20～30代は女性にとって、とてもいい時期であり、その分とても難しい時期だと思います。夢と希望と愛と勇気にあふれ、時にそのいくつかに敗れ、時にそのいくつものに敗れ、強くも弱くもなる時期です。気力と体力が満ちていき、そして残念ながら、放っておくとそれらを徐々に失っていく時期でもあります。

そして何より、結婚や出産など人生の転機を経験する時期でもあります。私には一般論として「結婚はすべきだ」とか、「子どもを持つべきだ」という価値観はありませんが、でも望んだ結婚や出産が人生における大きな幸せの1ページを彩るということには間違いありません。

今となっては懐かしい、ファイナルプロジェクトのメンバーたち。彼らとともに取り組んだのは、「アメリカでマーケティングリサーチを行っている会社が新たに投資ファンドを立ち上げたい」というので、その戦略を提案する」という内容のプロジェクトでした。知識もバックグラウンドもなく、かなり辛かったです。

実際に結婚や出産をするかどうかにかかわらず、結婚や出産について考えることすら無縁で生きていくという人はかなり少数派でしょう。結婚しない人、子どもがいない人は以前より増えてきましたが、するにせよ、しないにせよ大きな決断です。そして、自分の思い通りのタイミングで自由に選択できるものでもありません。それに、人生は何

<連載>
最終回
6/6
全6回

元記者 竹本恵の



MBA in バルセロナ

があるか分からないもの。私のように、小さい頃から結婚したいとも子どもが欲しいとも全く思っていなかった人間でさえ、今こうして結婚し子どもが二人いるくらいです。ついでに離婚もしています。

勉強やスポーツは、成長曲線に従っておおむね、自分が頑張れば頑張った分だけ報われるものです。仕事も、勉強ほどではないにしても、ある程度は努力と結果に相関関係があるのではないかと思います。しかし、結婚や出産ともなるとそうはいきません。



今となっては懐かしい、ファイナルプロジェクトのメンバーたち

正直なところ、結婚はそこまで生活に劇的な変化はもたらさないのではないかと考えていますが、出産というかむしろその後の育児は、人生を変えます。思い通りにいかないことだらけで、でもとてもいい意味で、思ってもいなかったことだらけです。仕事で天職に出合った人が、育児にも全力を注ぎたいと思ったら…

さらにここに「キャリア」という要素を加えると人生はさらに複雑になっていきます。読者の皆さんは「両立」をどう定義しますか？

仕事を続けつつ、子どもを育てていけることを「仕事と家庭の両立」というなら間違いなく、少しずつ両立しやすい社会になってきています。10数年前に比べれば、法律的な整備も企業の取り組みも進み、男性が家事や育児を担うことに対する意識も変わってきています。もちろん、昔と比べて「今はいいよね(だから頑張れ)」と言われても困るし、環境が変わっても自分の会社や家族が全然変わっていない場合もありますが、子育て中の女性が働きやすい環境づくりに向かって社会が動いていることは歓迎すべきことです。

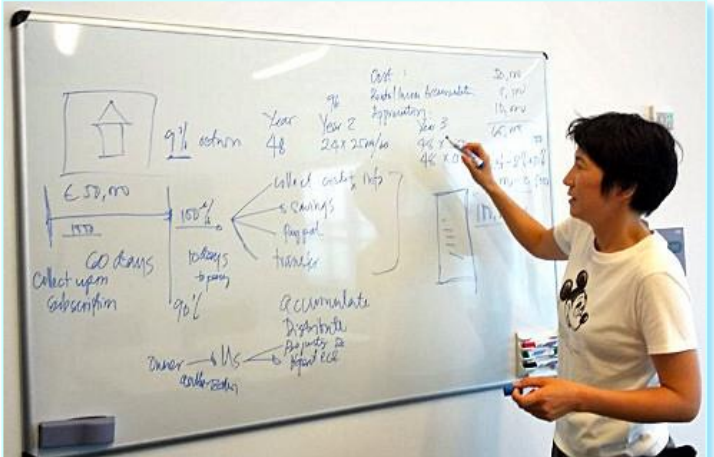
でも一方、例えば、天職と思えるような、全力を注ぎたいと思えるような仕事に出合った人が、育児にも全力を注ぎたいと思った場合はどうでしょう。一日が全ての人に平等に24時間である限り、これを「両立」とするならばさすがに難しいと言わざるを得ません。極端な例と思うかもしれませんが、多くの人が置かれている状況は、あなたがこの例から遠くないのではないかと考えています。毎日、全身全霊を捧げて仕事をしているわけではないにしても、皆さん、それなりに、それぞれに、一生懸命やっていますか？ 子育ても、できる範囲でできる限りのことをしてあげたいし、特に小さいうちは子どもの成長を間近で見たいと思う人多いのではないかと思います。

結局のところ多くの人にとって、仕事と家庭の両立は、どちらにも妥協が必要だけれども何とかできるし、何とかしないといけな、というのが現実のかなと思います。

問題なのは、それぞれの「妥協」を自分がどう捉えるか。私個人的には、子育てに関して妥協することはあまり気になりませんでした。もっと早く保育園に迎えに行きたい、習い事をさせたいが時間がない、

ビジネスアイデアをクラスメートに説明している時の一枚。

ESADEの起業支援プログラムに3つ応募し、幸運にも3つとも採用されたので、この夏は忙しくなりそうです。



“2019年・報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から”

編集:工藤義夫(事務局)

などのもやもやはありました。ただ、子どもがすさまじい速さで成長していくので、短期的には妥協した分がどう影響しているかが分かりにくく、長期的に見ると自らの妥協の影響なんて分かりようがありません。もちろん結果論として、例えば、小さい頃から水泳を習っていたので水泳が得意になった、などは言えると思いますが、逆に嫌いになるパターンもあり得ます。

<キャリアで「妥協」すると、もやもやしやすい>

一方、自分のキャリアにおける妥協は、目に見えやすいのもやもやしやすいといえます。産休や育児休業に伴ってキャリアが中断する、育児のために短時間勤務になる、などです。仕事を続けたい人がこれらの制度を利用して辞めずに済むのは素晴らしいことですが、一方で「もっと働きたい」と思う場合や、職場で肩身が狭くなったり昇進が遅くなったりする場合もあるでしょう。ちなみに、当たり前のことなのですが、社員一人がいなくなると回らなくなる会社はありませんし、あるとしたら逆に問題です。個人的には昔は「仕事は絶対に休めないもの」と思い込んでよほどのことがない限り休んだことはありませんでしたが、産休や育休を経て、いい意味で「私がいなくても大丈夫」と肩の力を抜くことができたような気がします。

こうやって書いてみると、やはり子育てをするかしないかというのは、現状では、特に女性のキャリアを考える上で著しく大きな要因になります。もし子どもがいなくても、他の条件が同じなら、仕事にかけられる余力が増えるので、希望するキャリアに近づける確率が高まるでしょう。もし子どもがいる場合、大変なことは増えますが、子どもがそれをほめるか上回る喜びをもたらしてくれるでしょう。でも、これは決して簡単な二択問題ではなく、他にも数えきれないほどたくさんの要因が影響してきます。

人生にはマニュアルも正解もありません。それぞれに理想があって、理想と現実とはいて離れています。仕事も家庭も、その両立も、どこにでも、もやもやするものがあって、消えることはありません。それをふまえてじゃあどうしたらいいかという、ものすごくたくさんの時間を費やして考えた結論としては、現実が理想に近づくように、日々できることを地道に一生懸命やっていくしかないのかなと思っています。

人生の転機を迎える20~30代。私は仕事でもプライベートでも、大事なことは「自分で選択し決断すること」だと思っています。それぞれの人が置かれている状況は異なるわけですが、その状況の中には自分では変えられないものもあるし、変えられないと思いついて入っているものもあるかもしれません。自分の進むべき道を自分で選び進むことができたなら、きっと、どんな選択をしてもどんな決断をしても、自分が選んだ道で正しかったんだと思えるポジティブな生き方、考え方ができるのではないかと思います。人間は生きていれば何とかなります。失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦していつもらえたらと思います。

仕事をしていると「もうだめだ」「このままじゃだめだ」と思う時は必ず来るとも思います。そんな瞬間が何度も何度も来るかもしれません。そう思った時、あなたならどうしますか？ 一つには、その状況から抜け出して、全く違う道を探するという選択肢もあります。私の場合はこれを選びました。小さな子どもを二人連れてスペインにやってくる、将来的なリスクの高さは半端ないと感じていますが、MBAでさまざまなことを学べてよかったというよりは、これからどうという人生が待っているのか、どう

いう道を自分で切り開いていくのが、とても楽しみです。何もできずに日本に帰る日が来たとしても、この道を選んだことを後悔することは、一生ないでしょう。

<「もうだめだ」を乗り切った人だからこその強さ>

でも、いろいろな制約があって、なかなか一歩を踏み出せない人もいます。その場合は、踏み出さなくてもいいのかなと思います。全ての人に当てはまるとは思いませんが、例えば自分のやりたいことよりもっと大切な何かを持っているのではないのでしょうか。「もうだめだ」という最悪な状況から一日一日を何とか乗り切り、そしていつか「もうだめだ」と思うに至った状況や会社を、自分が変える立場になるまで頑張れる人が増えていったら、その会社やひいては日本の社会はもっともっと良くなるに違いありません。私はそんなリーダーが次々と育っていくことを、心から願っています。

最愛の子どもたちです。私がいるといつもけんかしていますが、私がいなくていい時はとっても優しいお兄ちゃんなんだそうです。



<あとがき>

先日、MBAの課外授業の一つ「スタディ・ツアー」の一環で1週間、南アフリカのケープタウンに行ってきました。行き先は南アの他にドイツと韓国があり、参加は自由です。内容は行き先によって違いますが、現地のビジネスの状況を学んだり、会社を訪問したりするのが基本になっていると思います。私たちはケープタウン大学のビジネススクールのキャンパスをベースに(ホテルも敷地内に併設)、市内のあちこちを見て回り、最後にビジネスのアイデアなどを発表しました。

南アはとても奥が深い国です。政治、経済、社会の状況についてきちんと書くにはスペースも、知識も足りないのが割愛しますが、1週間、滞在した限りでの国を一言で表すとすると、私が今まで訪れた国の中では最も「いびつ」な国でした。気になる方は機会があったらぜひ、その足で訪れて体験してみたいところなんです。私はもう少し南アについて調べてみたいくなりました。

さて、南ア滞在の最終日に「喜望峰」に行ってきました。喜望峰は1488年、ポルトガル人の航海者バルトロム・ディアスによって発見された岬です。当時この海域が非常に荒れていたことから「嵐の岬」と名付けられましたが、その後ポルトガル王が東方への航路発見に希望を抱き「喜望峰」と改名したと言われています。ケープタウンからは車で1~1.5時間ほどの場所です。

当初は「アフリカ大陸最南端！」と思って「先端好き」の私はめき立ちましたが、残念ながら最南端は「アガラス岬」という別の場所です。ガイドブックによると喜望峰(のすぐ脇にあるケープ・ポイント)は「最南西端」だそうです。それはさておき、私にとって喜望峰はここ数年で最も感動した場所になりました。タクシー運転手のおじちゃんによると、ここは大西洋とインド洋が交わる場所。海の深さと海水の温度が違うので、大西洋の海流がより色が濃く、インド洋は薄く明るく見えるのだと。その交わる部分が目ではっきり見えます。

たまたまその日は嵐が来ていたのもあり、いつも増して風が強い日でした。およそ500年前、大航海時代にたくさんの船がここを目指し、この近くで座礁したのだからという思いをさせて感慨にふけるには、絶好の日よりでした。私はシルクロードの商人や大航海時代の船乗りにも強い憧れを抱くタイプの人間なので、この感動は言葉にしがたいものがあります。さらに、本当は十数年前にオートバイでここまで来るはずだったんだと、ここまで来られなかったんだと、そんないろいろな思いが交錯した、思いついた場所になりました。

ちなみに後で調べたところによると、大西洋とインド洋の境目は、国際水路機関が決めていて、アフリカ大陸の最南端アガラス岬から南極大陸に至る東経20度1分だそうです。つまり、喜望峰ではない、と。ただ、経線に沿ってきれいに海や海流が分かっているわけではないはずなので、きっと私が目にした海の境目に見えたものも、大西洋とインド洋が交わっている場所の一部なんだろうと解釈しています。文・写真/竹本恵



以上、全6回 連載終了
ながらくのご愛読ありがとうございます

<お知らせ> 前号まで連載の「報道人として生きて」高橋 守氏(66期)はホームページへ。